

みどり市
道路・治水プログラム
(2022－2031)



令和4年3月

もくじ

第1章 基本情報	
・ 道路治水プログラムとは	1
・ 計画期間	
・ 位置づけ	
・ 策定の背景	
・ 都市建設行政の戦略的な取組方針	2
・ 施策と取組指標	4
第2章 道路プログラム編	
・ 道路を取り巻く現状	5
・ 道路整備の課題	6
・ 具体的な取組	7
第3章 治水プログラム編	
・ 治水を取り巻く現状	8
・ 治水対策の課題	9
・ 具体的な取組	10
第4章 事業推進に向けた取組	
・ 事業推進のための3つの視点	11
第5章 地域別事業概要	
・ 道路（幹線道路）	12
・ 道路（生活道路）	14
・ 治水対策	16
用語解説	18

表紙の写真



整備が進む渡良瀬幹線道路 (みどり市笠懸町地内)

渡良瀬幹線道路は、北関東自動車道の太田薮塚ICから北上し本市や桐生市を經由して日光方面へ至る、災害時にも機能する強靱なネットワークとして県が整備を進める広域幹線道路です

写真提供：群馬県

第1章 基本情報

1 道路・治水プログラムとは

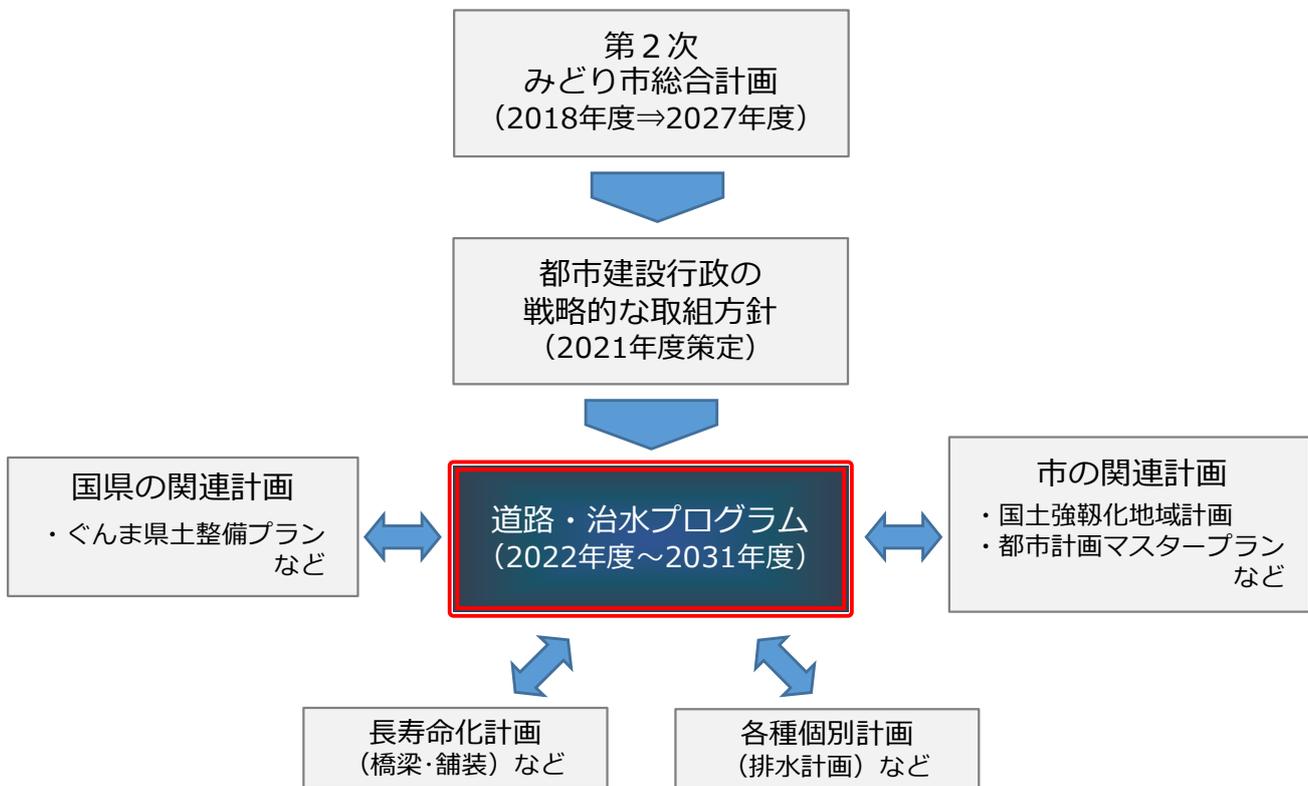
道路・治水プログラムは、みどり市の基幹的なインフラである道路整備や治水対策について「どのような考え方の下で」「どのように進めていくのか」を示す実行計画です。

2 計画期間

令和4年度（2022年度）から令和13年度（2031）年度までの10年間の計画とし、概ね5年ごとに見直しを行います。

これは、市民生活に欠かせない道路や治水対策に関する社会資本が、整備完成後の効果発現までに時間を要することを踏まえて設定しています。

3 位置づけ



4 策定の背景

本市の社会基盤は「国道50号前橋笠懸バイパス」や「渡良瀬幹線道路」の事業進捗により「広域的な道路交通ネットワーク」の具体的な姿が形になりつつあります。

一方で20年後を展望すると「気象災害の頻発・激甚化」、人口減少進展による地域「コミュニティの希薄化や生活必需サービス機能の衰退」、インフラの維持管理に欠かせない「建設産業等の担い手確保」など、多くの課題に対する対応が求められています。

こうした変化を踏まえ、住み慣れた地域に安心して住み続けることができる「持続可能で強靱な社会の実現」に向け、新たに「道路・治水プログラム」を策定するものです。

5 都市建設行政の戦略的な取組方針

戦略的な4つの施策体系

現状と課題

完成年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
周辺地域の社会資本整備状況	●太田連立完成			●北関東自動車道全線開通			●伊勢崎連立完成	上武道路全線開通	●太田強戸SIC完成	●		
			●波志江SIC完成		●中通大橋4車線開通		●東毛広幹道全線開通	●	●	●渡良瀬幹線	●	●藪塚笠懸工区完成

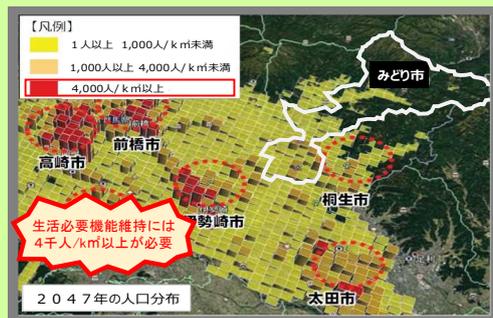
- 周辺の地域では、人口減少社会が本格化する平成前期までに計画・着手した基幹的インフラの整備が概ね完了
- 国道50号や渡良瀬幹線道路などの大型事業が本格化し、チャンスを迎える中で「持続可能なまちづくり」の実現に向け、限られた財源を有効に活用しながらこれまで遅れていた基盤整備を「4つの視点」で計画的に進める

持続可能な「暮らし」

取組1：生活機能維持に必要な「均衡とまとまりの確保」

人口減少社会の進展により拡散と密度低下が進むと、市場規模の低下による生活必要機能（医療・公共交通等）の維持が困難になる恐れがある

住み慣れた地域に住み続けるためには、まちのまとまりを維持しながら効率的で快適なまちづくりが必要



人口規模の将来分布／ぐんま・県土整備プラン2020

持続可能な「安全」

取組2：災害や老朽化に備えた「インフラの強靱化」

気象災害の頻発・激甚化が進む中、生活や企業の活動継続性を確保するためのインフラ強靱化が課題

しかし本市の橋梁を例にとっても、20年後には完成後50年を超える老朽化橋梁が7割まで急増するため、計画的な維持・管理が不可欠



築50年経過の橋梁／みどり市橋梁長寿命化計画（H27.8）

持続可能な「成長」

取組3：優位性を活かした「成長拠点の整備・誘導」

本市の交通環境は今後10年間で「広域幹線道路の開通」による大幅な優位性の向上が見込まれる

この機会を活かし、産業・観光振興、移住・定住促進など、地域特性に合わせた持続的成長につなげるため、広域的な機能集積拠点の整備・誘導が必要



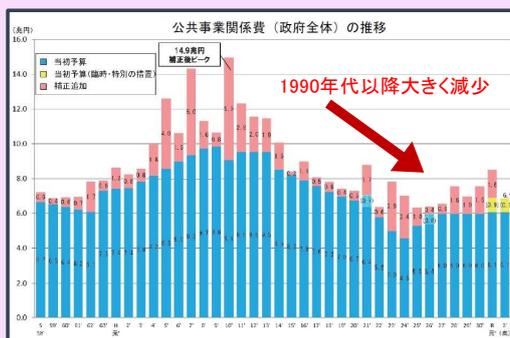
ICから15分圏域の人口カバー率／ぐんま・県土整備プラン2020

持続可能な「投資」

取組4：財政支援や成長につながる「計画的な事業投資」

国は厳しい財政状況の下、中長期の戦略的な重点施策に合致する事業へ投資先を絞り込んでいる

持続可能な公共投資のためには、国が掲げる施策方針に基づいた支援制度を最大限に活用した効率的な事業実施や、将来の税収増加にも寄与する戦略的な事業展開が必要



公共事業関係予算の推移（S58～R2）／財務省資料

施策展開			分野				スケジュール（年度）										
			暮らし	安全	成長	投資	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
継続	国	コンパクト+ネットワーク H26.4	・国のグランドデザイン		●	●	●	●									
		戦略的インフラ維持管理 H25.12	・インフラの維持・管理方針		●	●	●	●									
大きな動き	国	SDGSアクションプラン R1.12	・持続可能で強靱なインフラ		●	●	●	●									
		防災・減災プロジェクト R2.7	・全施策へ防災・減災反映		●	●	●	●									
		国道50号(前笠道路) R2.8	・地元説明会に着手		●	●	●	●									
	県	気象災害非常事態宣言 R1.12	・防災・減災対策の重点化		●	●	●	●									
		県土整備プラン見直し R2.12	・10年間のインフラ計画		●	●	●	●									
		都市計画区域マス見直し R2.12	・広域的なまちづくり方針		●	●	●	●									
		岩宿駅周辺県道整備 R2.10	・地元説明会に着手		●	●	●	●									
渡良瀬幹線道路延伸 R2.12	・延伸区間をR6迄に着手		●	●	●	●											
まちづくり計画	市	都市計画マスタープラン	・理念・目標、地域別構想 ・国や県の支援策		●	●	●	●									
		立地適正化計画	・成長拠点を設定・誘導 ・国や県の支援策		●	●	●	●									
		特定用途制限地域	・段階的にまとまりを誘導 ・国や県の支援策		●	●	●	●									
		下水道事業計画	・環境改善でまとまり誘導 ・国や県の支援策		●	●	●	●									
		都計道の見直し	・都市構造の骨格を形成 ・国や県の支援策		●	●	●	●									
		景観計画・条例	・県から市へ景観行政移行 ・段階的に発展		●	●	●	●									
		道路整備プログラム	・成長につなげる投資計画 ・国や県の支援策		●	●	●	●									
		治水対策プログラム	・強靱化やまとまりの計画 ・国や県の支援策		●	●	●	●									
		耐震改修促進計画改訂	・強靱化やまとまりの計画 ・国や県の支援策		●	●	●	●									
まちづくり事業	市	産業団地整備	・産業基盤の拡大・強化 ・国や県との連携		●	●	●	●									
		西鹿田グリーンパーク整備	・広域的な都市拠点整備 ・渡良瀬幹線道路関連		●	●	●	●									
		(都)天神拾四丁線整備	・都市の骨格形成 ・国道50号前笠道路関連		●	●	●	●									
		岩宿駅前広場整備	・交通拠点の連携強化 ・県道整備関連		●	●	●	●									
		市道整備	・都市骨格と成長基盤の整備 ・まとまりを誘導		●	●	●	●									
		下水道整備	・環境改善でまとまりを誘導 ・国や県との連携		●	●	●	●									
		雨水幹線整備	・強靱化による生活基盤整備 ・国や県との連携		●	●	●	●									

6 本プログラムの「施策体系」と「取組指標」

政策1 持続可能な「暮らし」

10年間で取組む指標と進捗率（R3年度末 → R13年度末）

施策1 生活に身近な道路環境の整備

市民に身近な生活道路の対策実施率

0% → 71%

施策2 生活環境保全のための排水対策

水害リスクを低減するための対策実施率

7% → 81%

政策2 持続可能な「安全」

施策1 災害に強い道路整備

広域幹線や拠点を結ぶ幹線市道の整備率

62% → 86%

施策2 水害リスクの低減

水害リスクを低減するための対策実施率

7% → 81%

施策3 道路・橋梁の戦略的な維持管理

長寿命化計画（5ヶ年毎）に基づく橋梁の補修率

0% → 100%

政策3 持続可能な「成長」

施策1 成長基盤を形成・支援する道路整備

広域幹線や拠点を結ぶ幹線市道の整備率

62% → 86%

施策2 成長基盤を形成・支援する治水対策

水害リスクを低減するための対策実施率

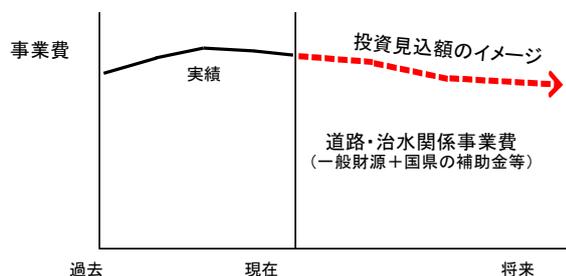
7% → 81%

政策4 持続可能な「投資」

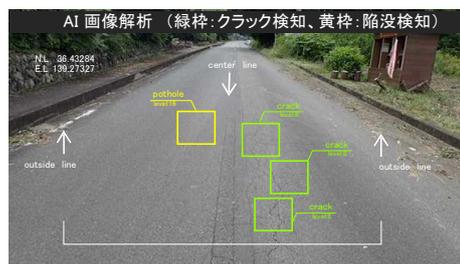
3つの視点による、持続可能な「財政スタミナ設定」と「進捗管理」

- ① 財政推計や国県による施策・補助制度等の動向を踏まえた、事業規模とスケジュール感を可視化
- ② 進捗管理と社会状況変化を踏まえた、柔軟な計画見直しによる効果的な事業展開
- ③ 新技術・工法活用やニーズに合わせた管理・設計水準の設定、発注の平準化等による更なる推進

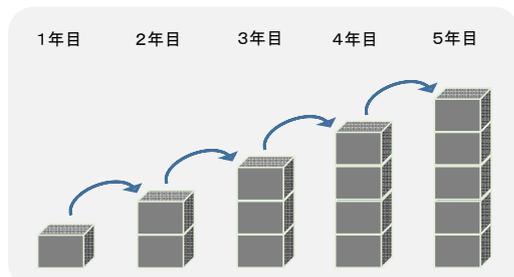
財政推計や補助制度活用による「投資見込額」設定



施策推進に向けた取組の例



5年毎の成果検証と社会情勢変化等を踏まえた見直し



取組指標：具体的な進捗を明確に把握する指標
(幹線市道の整備延長 など)



成果指標：他の要因もあるが市民が効果を実感しやすい指標
(ICから30分圏域の人口カバー率 など)

第2章 道路プログラム編

1 道路を取り巻く現状

本市の幹線道路は、東西に横断する国道50号や南北に縦断し日光方面へ至る国道122号をはじめ、他の国県道により広域的な道路ネットワークが形成されています。今後10年間で、国道50号前橋笠懸バイパスや渡良瀬幹線道路などの大規模事業が進展することにより、都市間の連絡や高速道路へのアクセス性が大きく改善し、災害時の広域連携機能の確保や経済活動を支える物流の効率化が期待されています。身近な生活道路では、まちなかの狭い道路や農地と宅地開発の混在による細切れ路線の発生など、安心して通行できる道路環境の整備が課題となっています。

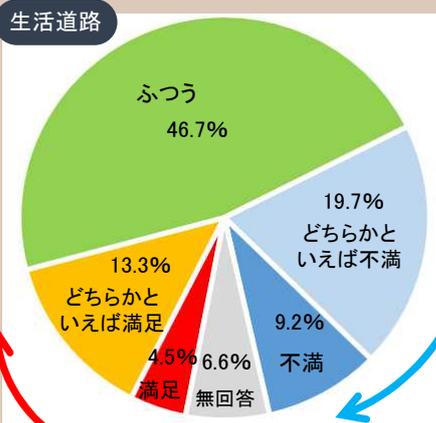
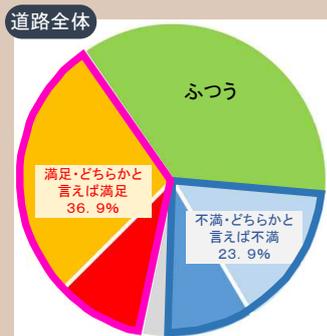
【災害時にも機能する強靱な道路ネットワーク】



ぐんま・県土整備プラン 2020

【市民の道路整備に対する満足度】

道路全体では「満足」の割合が高い中で



生活道路に対する意識は「満足」よりも「不満」の割合が高い

28.9%
不満+どちらかと言えば不満

17.8%
満足+どちらかと言えば満足

市民意識調査(令和2年度実績)

2 道路整備の課題

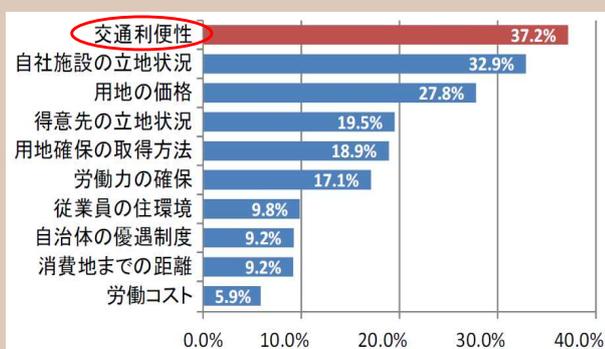
本市の道路ネットワークは、国道50号前橋笠懸バイパスや渡良瀬幹線道路など、広域的な幹線道路整備が進み、概ね10年後には地域の利便性が大きく向上します。

これらの基盤強化による恩恵を、災害時における市民生活や経済活動の継続性確保や、利便性と生産性の向上へ活かすためには、連携する市道の効果的かつ効率的な整備促進が必要となります。

また、身近な「生活道路の整備に対する満足度」は低い評価となっており、地域事情に即したきめ細やかな対策と、長く住み続けることができる「まちのまとまり」形成につながるような、市のまちづくり方針と整合した生活基盤の充実が求められています。

更に、高度成長期以降に建設された橋梁等の社会資本の老朽化が進み、事故の発生や維持管理コストの増大が懸念されていることから「長寿命化計画」に基づく予防保全型の維持管理・更新の実施により、持続可能で効率的なメンテナンスを推進します。

企業の進出にあたり重視される項目



(新たな拠点・設備を整備する意向がある民間企業)

群馬県交通まちづくり戦略(H30)

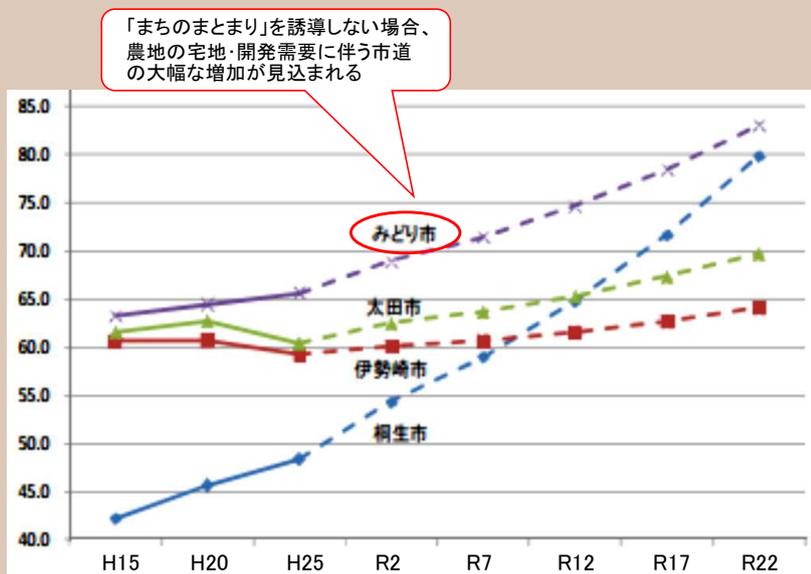
サービス施設の立地に必要な「地域の人口規模」



国土交通省資料

「必需機能の存続」には一定の人口規模(まちのまとまり)が必要

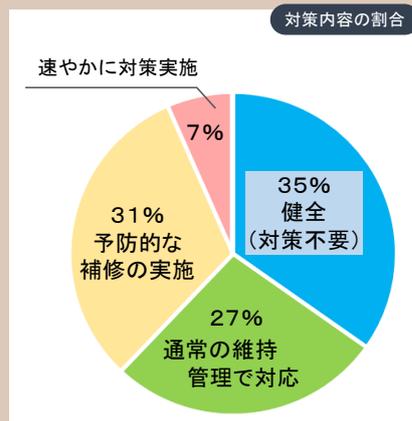
人口1人あたりの市町村道管理面積(m²/人)



第32次地方制度調査会 専門小委員会資料

橋梁長寿命化修繕計画について

策定年度 : R2(2020)年
 計画期間 : 100年(国や県と整合)
 施設規模 : 136橋
 要対策数 : 863部位



みどり市橋梁長寿命化修繕計画(令和元年度)

3 具体的な取組

1 持続可能な「暮らし」

生活機能維持に必要な「均衡とまとまりの確保」

1-1 生活に身近な道路環境の整備

市民に身近な生活道路における安全な歩行環境整備、車両のすれ違い困難や渋滞箇所の解消、更には、路面標示等による視認性の向上など、地域の課題や要望に応じて、誰もが安全で快適に暮らし続けることができる「まちのまとまり」を支える道路整備を進める

通学路や生活道路の整備



(市道4036号線／大間々町)



(市道1298号線／笠懸町)

2 持続可能な「安全」

災害や老朽化に備えた「インフラの強靱化」

2-1 災害に強い道路整備

激甚化・頻発化する自然災害から市民の命を守るため、円滑な避難や迅速な救命救急、復旧復興を可能とすると共に、市民生活や企業活動等の継続性確保に必要な、防災・物流拠点との連携を強化する強靱な道路ネットワークを構築する

整備前



整備後



落石対策工事(市道2級35号線／東町)

2-3 道路・橋梁の戦略的な維持管理

市が管理する既存橋梁の例では6割が建設後50年以上経過しており、老朽化が進んでいる

維持管理に関する業務や費用の平準化を図るため、別に定める「橋梁補修計画」に基づいて、持続可能で効果的な対策を進める

舗装補修工事



(市道1級19号線／大間々町)

橋梁補修工事



(阿久沢橋／東町)

3 持続可能な「成長」

優位性を活かした「成長拠点の整備・誘導」

3-1 成長基盤を形成・支援する道路整備

国や県による広域幹線道路整備が進み、アクセス性向上による産業・観光振興や生活利便性向上などの効果が期待される

広域的な道路ネットワークの効果を呼び込むため、主要な市道整備を積極的に進める

整備前



整備後



道路改築事業(市道1級5号線／笠懸町)

第3章 治水プログラム編

1 治水を取り巻く状況

全国の時間雨量 50 mm以上の年間発生回数を見ると、1976年から1985年の10か年平均約226回に対し、2011年から2020年の10か年平均は約334回と35年間で約1.5倍に増加しています。

また、100年後に地球温暖化が最も進行した場合、時間雨量 50 mm以上の降雨の発生回数も2倍以上に増加すると予測されています。

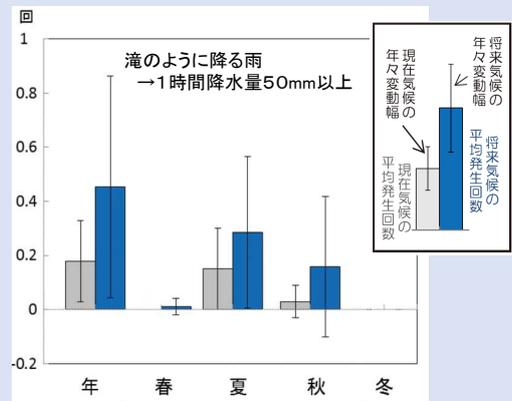
みどり市でも、過去に大規模な水害や土砂災害が発生しており、近年の気象災害の頻発や激甚化を受け、今後も同規模の災害が起こることを想定しつつ、しっかりとした対策を講じていく必要があります。

【全国「アメダス」1時間降水量50mm以上の年間発生数】



豪雨の発生頻度が
これまでの35年間で1.5倍に増加

【滝のように降る雨の回数の将来変化】
(20世紀末→21世紀末)／群馬県



更に100年後には2倍以上なる予測も

気象庁資料

【過去に発生した主な大規模災害】

自然災害	過去の主な災害（被害状況）
風水害 土砂災害	<p>* カスリン台風（昭和 22 年 9 月 14 日から 15 日まで） 【大間々町】・死者 8 人(塩沢 7、下神梅 1) ・家屋被害 6 戸、非家屋被害 3 戸 ・道路橋梁被害 12 箇所</p> <p>【東村】 ・土砂崩れ 12 箇所 ・鉄橋流出 3 箇所</p> <p>* アイオン台風（昭和 23 年 9 月 16 日） 【東村】家屋被害 流出 16 戸、半壊 3 戸(渡良瀬川の氾濫)</p> <p>* キティ台風（昭和 24 年 8 月 31 日から 9 月 1 日まで） 【大間々町】家屋被害 全壊 3 戸(福岡村 2、大間々町 1)</p> <p>* 令和元年東日本台風（令和元年 10 月 11 日から 13 日まで） ・12 日 14 時 42 分に災害対策本部を設置 ・笠懸町久宮、東町草木、座間、沢入地区に避難準備・高齢者等避難開始（警戒レベル 3）を発令 ・12 日 18 時 5 分に市内で初の大雨特別警報が発令 ・市内の 3 箇所の拠点避難所に 50 世帯 90 名が避難 ・国道、市道への倒木が数箇所</p>

危機管理課資料

2 治水対策の課題

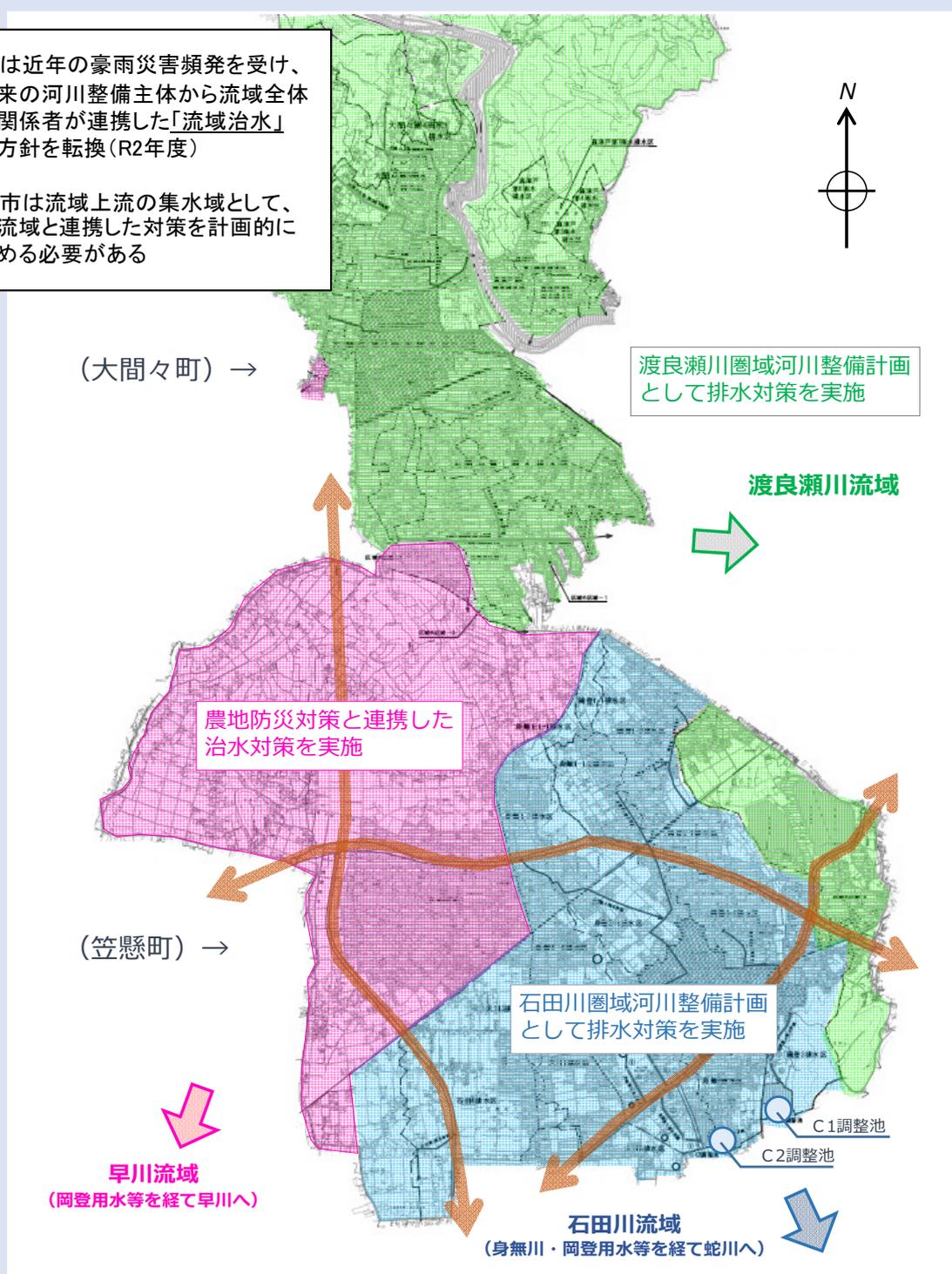
本市の治水事業は、利根川水系と渡良瀬川水系の河川整備計画に関連する区域と農業振興地域を中心とした農地防災対策による区域に大別され、それぞれの地域課題にあった効果的で効率的な対策を関係者との連携により推進する必要があります。

北部を中心とした山間地に関しては、降雨による土砂災害の発生危険箇所やこれに伴う災害発生時の市民生活や経済活動等への影響を考えた対策を実施します。

中南部では、流末の排水先となる河川や水路の断面確保が困難であるため、流域全体の洪水調整機能を考えた、大規模な調整池（石田川流域ではC1やC2の調整池）と連携した、排水路整備や地域毎に効果を発揮する小規模な調整池の整備など、集水域としての総合的な取組を進めます。

【広域的な連携による治水対策】

- ・ 国は近年の豪雨災害頻発を受け、従来の河川整備主体から流域全体の関係者が連携した「流域治水」へ方針を転換(R2年度)
- ・ 本市は流域上流の集水域として、下流域と連携した対策を計画的に進める必要がある



3 具体的な取組

1 持続可能な「暮らし」

生活機能維持に必要な「均衡とまとまりの確保」

1-2 生活環境保全のための排水対策

頻発化・激甚化する降雨災害等による市民生活への影響発生を防止・低減するため、人の暮らしが集まる地域、行政機能や生活必需機能を有する地域などにおいて、排水路や調整池などの雨水対策施設整備を進めることにより、安心して住み続けられる生活環境の保全を図る

排水対策施設の整備



(排水溝整備／大間々町)



(調整池整備／笠懸町)

2 持続可能な「安全」

災害や老朽化に備えた「インフラの強靱化」

2-2 水害リスクの低減

大規模な水害や土砂災害発生時にも、迅速な救命救急活動や経済活動の継続性を確保するため、災害発生時の避難場所や防災拠点、要配慮者施設に対する影響度、土砂災害警戒区域などの地形・斜面等による危険度に応じて、国や県などの関係機関と連携して必要な対策を進める

水害対策施設の整備



(排水路整備／大間々町)



(流路溝整備／東町)

3 持続可能な「成長」

優位性を活かした「成長拠点の整備・誘導」

3-2 成長基盤を形成・支援する治水対策

広域幹線道路ネットワークなどの社会基盤整備が進むことにより、本市は経済・産業基盤の立地先として優位性が向上

水害にも強い社会基盤を整備し、安定的な経済活動が可能な環境を整えることにより、地域間の競争力強化を図る

耕作地の湛水状況



幹線国道の出水状況



(国道50号周辺／笠懸町)

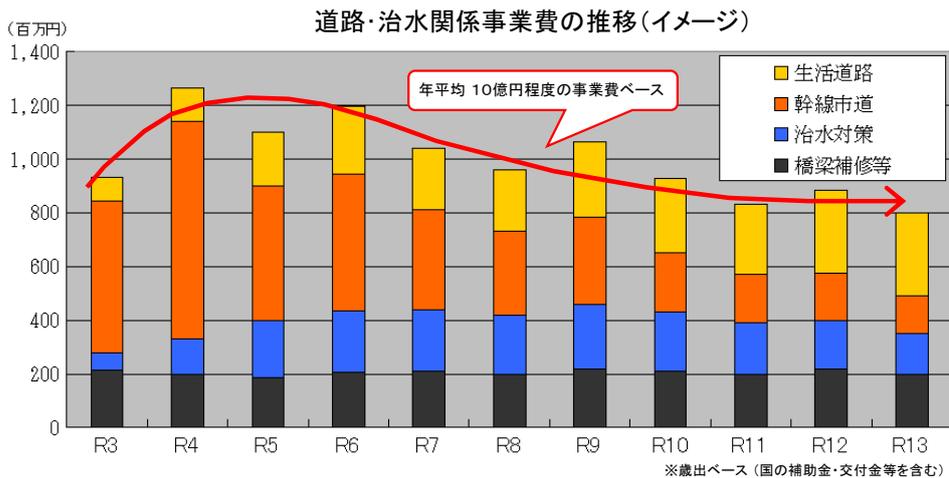
第4章 事業推進に向けた取組

持続可能な投資につながる3つの視点

限られた予算で政策を着実に推進するため「財政スタミナ」の設定と「成果」の確認、省力化や平準化による持続可能な「執行環境」の整備を進めます。

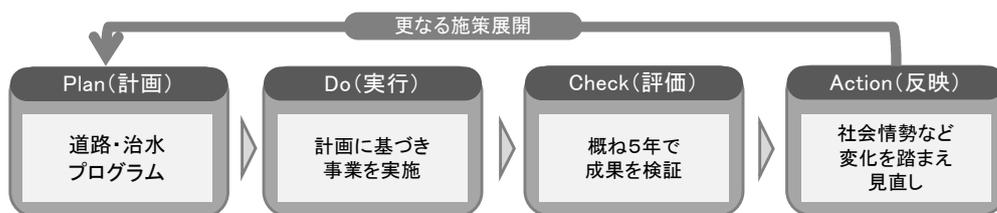
財政スタミナを踏まえた持続可能な取組

財政推計や国県による施策・補助制度等の動向を踏まえた、選択と集中による効率的・効果的な事業の推進を図ります。



見える化による効果的な事業促進

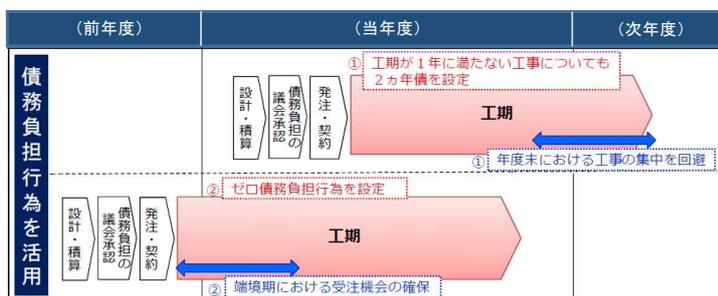
社会資本整備の目的や進捗・成果までの過程を見える化し、社会状況やニーズの変化を踏まえた見直しによる継続的な取組を行うにより、事業に対する理解促進や経済活動の誘発など、継続的な事業効果の相乗的な発現を図ります。



安定的な推進環境の整備

事業推進にあたっては、作業の効率化と担い手の持続的な確保が必要であるため、省力化につながる工法・技術の採用や施工時期の平準化により、担い手である建設産業の安定的な持続性の確保に向けた取組を進めます。

執行手続の運用改善による施工時期平準化の例



国土交通省資料

ICT活用による現場管理の省力化例



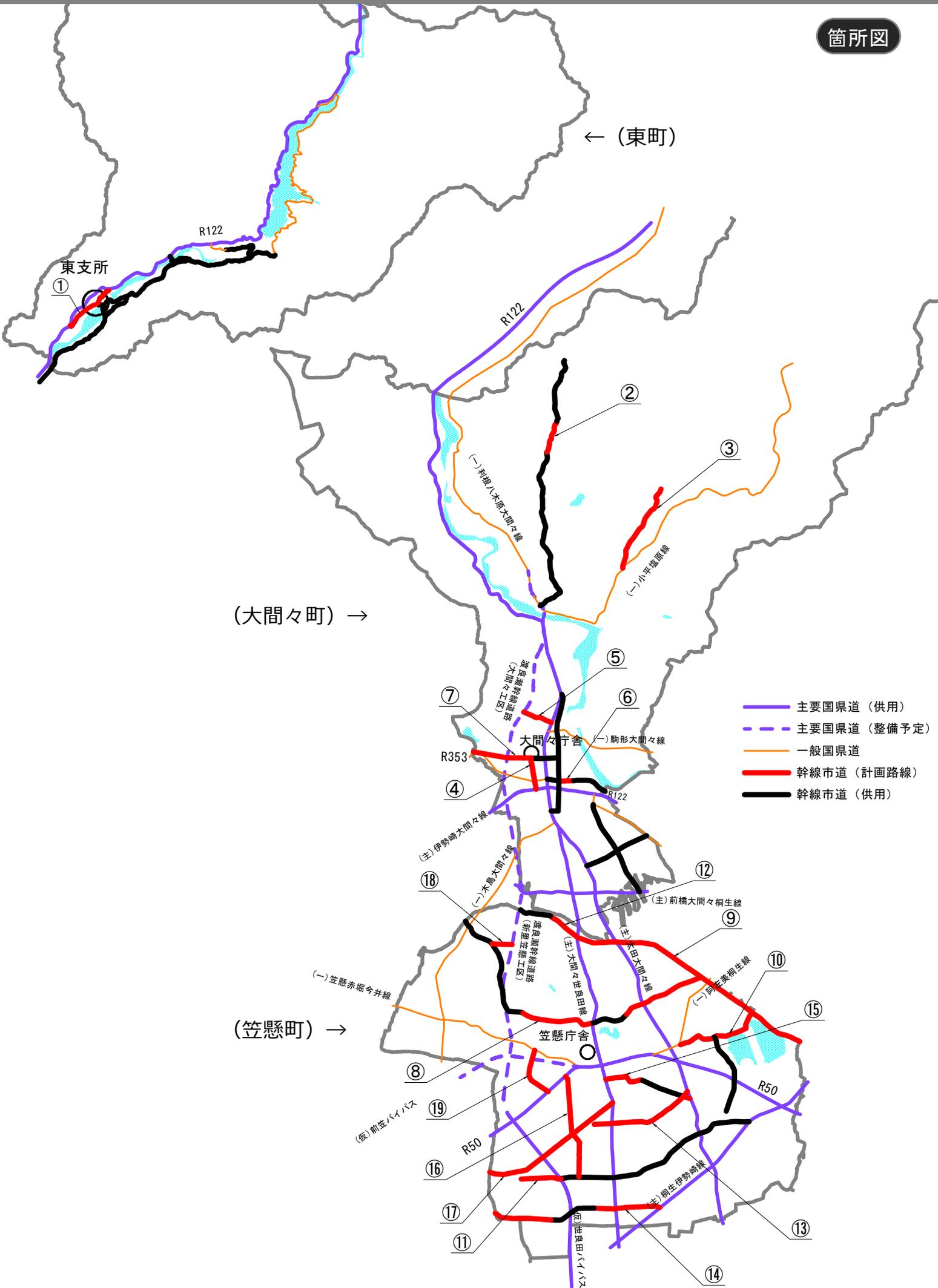
国土交通省資料

第5章 地域別事業概要

道路（幹線道路）

区分	NO	市道 路線名	政策			広域幹線や拠点を結ぶ幹線市道の整備			
			暮らし	安全	成長	整備 延長 (m)	整備率		
							着手前 (R03)	5年後 (R08)	10年後 (R13)
東町	①	2級32号線	●	●		390	78%	100%	100%
大間々町	②	1級16号線	●		●	660	83%	92%	100%
	③	1級17号線	●		●	280	78%	78%	89%
	④	1級20号線	●	●	●	700	67%	67%	95%
	⑤	2級21号線	●		●	690	53%	73%	100%
	⑥	大間々4036号線	●		●	70	55%	100%	100%
	⑦	桐原大間々線	●		●	840	0%	18%	43%
	笠懸町	⑧	1級1号線	●		●	2,350	48%	57%
⑨		1級2号線	●		●	540	85%	85%	87%
⑩		1級3号線	●		●	230	81%	100%	100%
⑪		1級5号線	●		●	430	86%	86%	100%
⑫		2級1号線	●		●	1,200	42%	56%	69%
⑬		2級7号線	●		●	590	52%	52%	80%
⑭		2級8号線	●		●	1,140	52%	63%	76%
⑮		2級9号線	●		●	570	52%	52%	78%
⑯		2級10号線	●		●	650	56%	56%	81%
⑰		2級13号線	●		●	1,140	44%	58%	76%
⑱		笠懸1115号線	●		●	280	0%	100%	100%
⑲		(都)天神拾四丁線	●		●	740	0%	100%	100%
合計	19路線					13,490	62%	72%	86%

箇所図

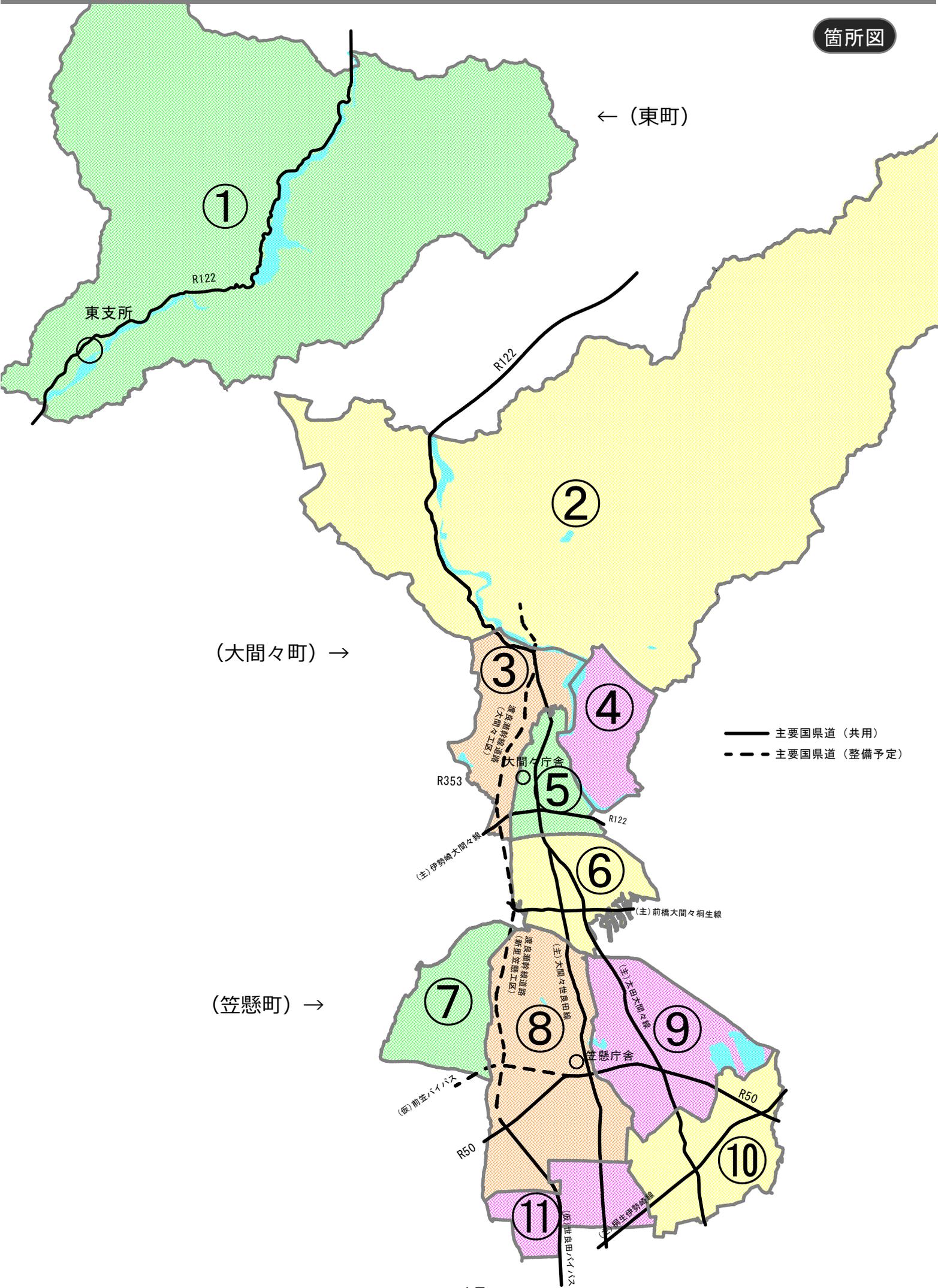


道路（生活道路）

区分	No.	区域内の市道		政策			取組が必要な生活道路の課題解消 (改良、安全対策、路面排水、舗装など)				
		路線数 (本)	延長 (km)	暮ら し	安 全	成 長	対象路線		対策実施率		
							路線数 (本)	延長 (m)	着手前 (R03)	5年後 (R08)	10年後 (R13)
東町	①	189	50.9	●	●	●	4	2,170	0%	39%	67%
大間々町	②	210	51.1	●	●	●	9	3,370	0%	30%	75%
	③	252	36.6	●	●	●	10	3,420	0%	31%	67%
	④	90	12.1	●	●	●	1	310	0%	35%	100%
	⑤	200	29.9	●	●	●	5	1,000	0%	25%	83%
	⑥	348	45.8	●	●	●	5	1,090	0%	47%	68%
	笠懸町	⑦	179	37.9	●	●	●	15	2,680	0%	30%
⑧		404	98.7	●	●	●	23	12,440	0%	39%	68%
⑨		309	61.4	●	●	●	16	6,120	0%	24%	72%
⑩		263	47.7	●	●	●	16	2,420	0%	34%	82%
⑪		117	28.1	●	●	●	10	3,220	0%	22%	69%
合計		2,561	500.1				114	38,240	0%	33%	71%

※ 生活道路機能を持つ幹線市道の小規模改修等を含む

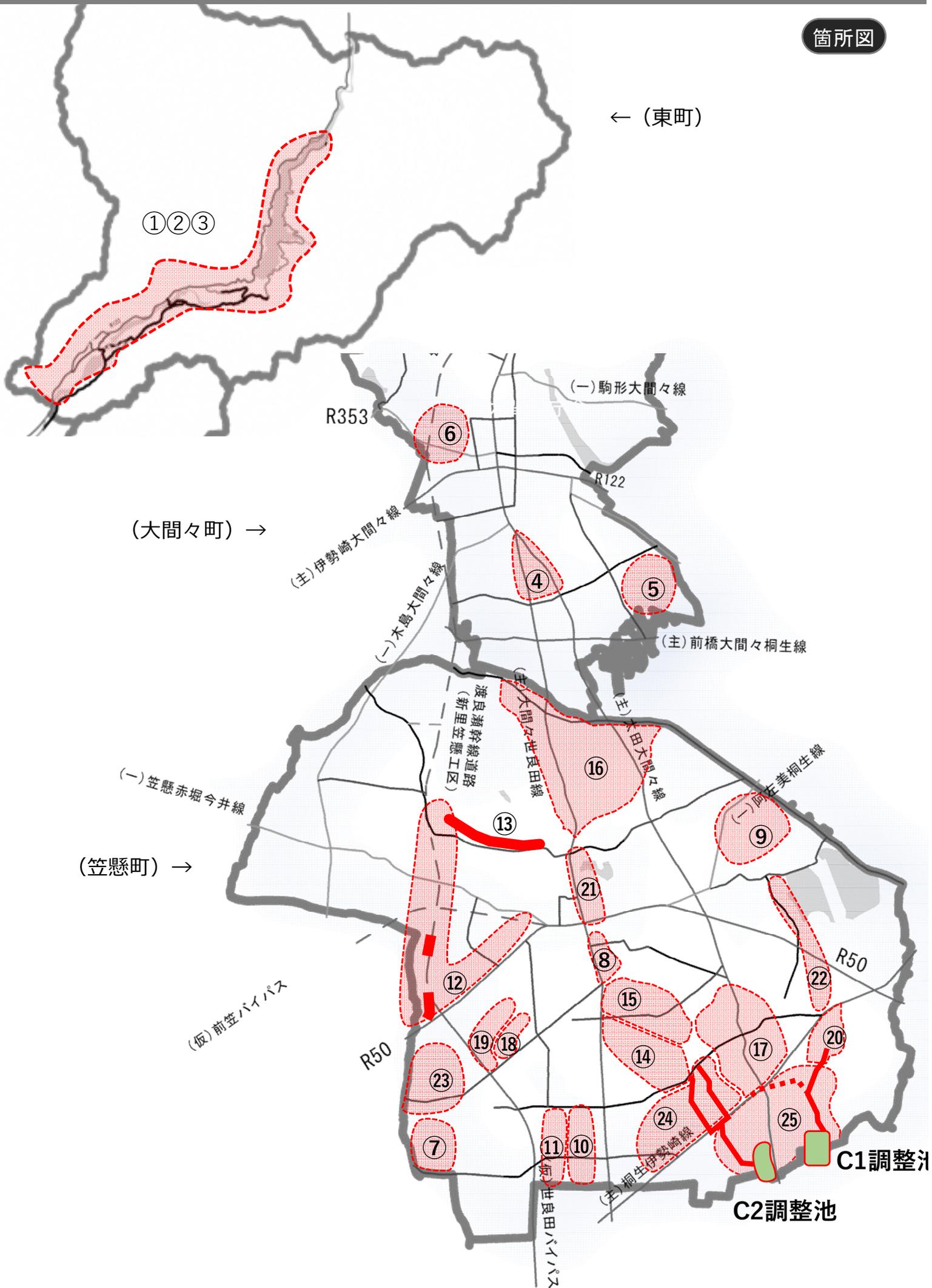
箇所図



治水対策

区分	NO	事業名	政策			所在地	水害リスク低減のための対策					
			暮らし	安全	成長		事業概要		対策実施率			
							調整池 (m ³)	水路 (m)	着手時 (R03)	5年後 (R08)	10年後 (R13)	
東町	①	東町土砂流出対策(1期)	●	●		東		100	66%	100%	100%	
	②	東町土砂流出対策(2期)	●	●		東		100	0%	43%	100%	
	③	東町土砂流出対策(3期)	●	●		東		100	0%	0%	30%	
大間々町	④	大間々町水害対策事業(1期)	●	●		大間々		100	66%	100%	100%	
	⑤	大間々町水害対策事業(2期)	●	●		大間々		127	0%	99%	100%	
	⑥	大間々町水害対策事業(3期)	●	●		大間々		480	0%	0%	53%	
笠懸町	⑦	(仮称)早川流域調整池	●			阿左美	2,640	1,074	55%	86%	100%	
	⑧	鹿h地区浸水対策事業	●			鹿	1,320		68%	100%	100%	
	⑨	阿左美沼地区 広域 雨水対策事業	●	●		阿左美	3,520	264	50%	100%	100%	
	⑩	NO.15調整池 浸水対策事業	●			久宮	3,565	299	0%	100%	100%	
	⑪	NO.16調整池 浸水対策事業	●			久宮	2,429	290	0%	100%	100%	
	⑫	国道50号 岡登用水 雨水対策事業(早川-9-1、9-3)		●	●	鹿	8,200	288	0%	61%	100%	
	⑬	国道50号 岡登用水 雨水対策事業(早川-8)		●	●	鹿		235	0%	0%	100%	
	⑭	身無4・5中流部 浸水対策事業	●	●		阿左美		986	15%	100%	100%	
	⑮	身無4・5上流部 浸水対策事業	●			鹿、 阿左美	8,650	1,456	0%	57%	99%	
	⑯	岩宿博物館周辺 雨水対策事業	●	●		阿左美	15,954	1,242	0%	77%	100%	
	⑰	身無2排水区中流部 浸水対策事業	●	●		阿左美		727	0%	0%	85%	
	⑱	(仮)世良田バイパス周辺 浸水対策事業(鹿c地区)	●	●	●	鹿	1,850	362	0%	0%	45%	
	⑲	(仮)世良田バイパス周辺 浸水対策事業(鹿d地区)	●		●	鹿	3,080	415	0%	0%	81%	
	⑳	岡登3排水区 雨水対策事業	●	●		阿左美		440	0%	0%	79%	
	㉑	身無1-2排水区 雨水対策事業	●	●		鹿	5,000		0%	0%	44%	
	㉒	岡登2-1、2-2排水区 雨水対策事業	●	●		阿左美	8,000	600	0%	0%	28%	
	㉓	(仮)世良田バイパス周辺 浸水対策事業(鹿f地区)	●			鹿	3,000	100	0%	0%	37%	
	㉔	大川排水区 雨水対策事業	●	●		久宮		150	10%	35%	73%	
	㉕	身無3排水区 雨水対策事業	●			久宮	8,000	50	5%	22%	59%	
	合計	25事業						75,208	9,984	7%	43%	81%

箇所図



用語解説

あ

■ **ICT** Information and Communications Technologyの略
コンピューターや通信ネットワークなど情報処理や通信に関連する技術やサービス等の総称

■ **アクセシ性** 目的地点までの移動しやすさのこと

う

■ **ウェアラブルカメラ** 身に着けて映像を撮影することができるカメラのこと

き

■ **狭あい道路** 幅員が狭く自動車のすれ違いが困難な道路のこと

■ **強靱** 強くて粘り強い意味から、社会基盤に関しては、災害時でも壊れにくく比較的容易に機能を復旧しやすい様子のこと

こ

■ **国50号前橋笠懸バイパス** 県内の国道50号で唯一の2車線区間である、前橋市今井町からみどり市笠懸町鹿の間の12.5kmのバイパス

さ

■ **財政スタミナ** 公共事業の実施に必要な、市の予算における投資体力のこと

■ **債務負担行為** 予算は単一年度で完結させる原則がある中で、あらかじめ後の年度での支出を約束することを予算で決めておくこと

せ

■ **生活必需機能** 医療、福祉、教育、買い物、公共交通など、生活を支えるための機能のこと

ち

■ **地域コミュニティ** 地域住民が生活し相互の交流が行われている場所のこと

ひ

■ **ピークカット** 豪雨等による異常出水を調整池に貯留・浸透させることにより、下流への流下を一定量に保つための機能のこと

ほ

■ **防災拠点** 災害発生時の避難や備蓄、救援物資の集積、活動や指揮本部などの機能を持った、拠点をいう

よ

■ **予防保全型の維持・管理** 損傷や劣化が進行する前に適切な対策を行って、更新時期の平準化と費用の縮減を図る管理手法のこと

り

■ **流域治水** 上流の集水域から下流の氾濫域までを一つの流域として捉え、あらゆる関係者（国、県、市町村、企業、住民）が連携して、水害を軽減させる考え方のこと

れ

■ **レジリエンスネットワーク** しなやかさや回復力を意味し、災害時にも救命・救急や支援物資輸送の活動や継続が可能な道路網のこと

わ

■ **渡良瀬幹線道路** 災害時にも機能する強靱な道路ネットワークとして県が整備を進めている幹線道路で、太田市藪塚町からみどり市大間々町下神梅の間で段階的に事業化が進められている



みどり市マスコットキャラクター みどもス

みどり市 道路・治水プログラム

みどり市 都市建設部 建設課